

Sports Graphic Number

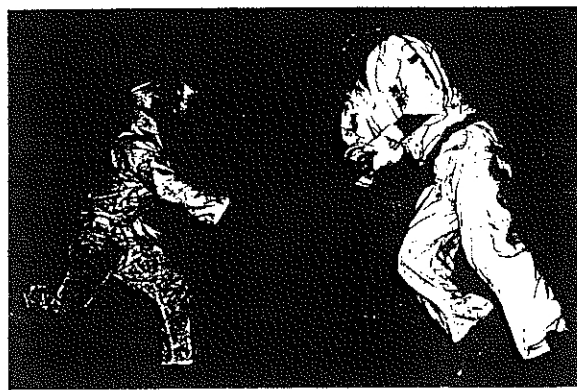
「スポーツグラフィック
ナンバー」

Sports Illustrated 5日・20日の月2回発行

327

祝康成=文
text by Yasunari Iwai
ぬまおやすひろ=イラストレーション
illustration by Yasuhiro Numao

「おんな口説くの苦手なんてね」
とつぶやく、怖い顔、の持ち主。
閉シャワーで顔面バックの小学生。
プラスチック製のマスクを被った
女性剣士。氷上の可憐な女子高生。
陸上の英雄は、褐色の大学生……。
今回の、主な登場人物です。



スポーツチャンバラ協会 (☎045-564-7198)

Takao Yamada

史上最強、世界最強の剣術 スポーツチャンバラ体験記

「剣道・フェンシング・サーベル。これらの競技上のルールを全部取り払って戦ったら、最も強い剣術は何か。その疑問が全ての始まりです」と語るのは、国際スポーツチャンバラ協会の田辺哲人会長(50)。チャンバラ、と聞くと何やら軽い冗談めいた響きがあるが、このスポーツチャ

ンバラ(以下スポチャン)は、剣道居合道等すべての段位をあわせて三十数段という極めつきの武道家である田辺氏が、試行錯誤のうえ昭和48年に創始した、史上最強の剣術なのである。

「スポチャンは誰でもその日から十分に戦える剣術」(田辺氏)

という言葉に誘われ、ものは試しと一日入門をお願いした。

横浜の本部道場では、男女約20名が練習の真っ最中。パン、パンと剣が激しく当たる音が痛そうだが、硬化ゴムを布で包んだ、ソフト剣は身体に当たると大きくしなるため、痛みは殆ど感じないという。

プラスチック製のマスクを被っていざ出陣。ソフト剣は非常に軽く、これなら女性子供でも自由に振り廻せる。当方、剣道の心得があるのでなんとかわれる、と思っていた。しかし、始まるなり踏み出した足を払われて、一本。田辺氏曰く「実際の戦場なら、どこを斬られても致命傷のはず。これは戦と同じなのです」

ちなみにスポチャンは構えも打ち方も全く自由。へつり腰だろうと剣をメチャクチャ突き出そうと、先に相手の身体へ当てた方が勝ち。

「剣道やフェンシングの達人が、初心者に負けることもある。それがスポチャンです」(同)

腰を、肩を、足をメタメタに打たれ、最後は女性の槍の遠い手に胸をひと突きされてジ・エンド。チャンバラに剣道は全く役に立たない、と思いついた夜だった。

12月23日、第19回世界スポーツチャンバラ選手権大会が神奈川県立武道館にて開催される。世界15カ国から1000名近い選手が集まり、「世界最強の剣士」を決める。

「助っ人外人」の誘いに負けず マヤカ選手は箱根を目指す

箱根駅伝で見事、初優勝を飾った1992年。山梨学院大学に陸上部が誕生してわずか6年目の快挙だった。その牽引車となったのがケニアからの留学生、ジョセフ・オツオリとケネディ・イセナの両選手。

そして彼らの卒業後、新しいケニアの星が誕生した。今年の箱根駅伝「花の2区」で区間賞を獲得したステファン・マヤカ選手(20・商学部2年)。来日3年目のマヤカは実に流

暢な日本語を話す。

「来年の箱根は優勝する。僕たちは絶対に負けない」

今年、早稲田大学に次いで2位に甘んじたことが悔しくてならない様子。将来の夢は、と訊ねると、「大学で学んでいる貿易の勉強を生かして、アフリカと日本の架け橋になるような仕事かしたい。それと、マラソンにも挑戦したいね」

厳しい顔で語るマヤカ選手だが、

「日本は大好き、でも納豆は嫌い」

N. Yamada



キャンパスですれ違った女子学生から「マヤカ元気?」と声が掛かると途端に相手を崩し、照れくさそうに手を振ってみせた。

「僕はこの甲府の街が大好きです。日本へ来て本当に良かったと思つて意外に感じたことが一つある。ケ

ニアからの留学生は、卒業生が僅かに2人。そして在學生はマヤカ選手ただひとりしかないのだ。上田誠仁監督が苦笑まじりに、こう語る。

「よく、助っ人外人だけで勝っている」と言われますが、それは全くの誤解。オツオリもマヤカも、ケニア

では極く普通のランナーでした。決して助っ人なんかじゃありません。他の1000人の部員と一緒に、陸上部の寮で育った我々の仲間です」

上田監督の机の上に3枚の葉書が置いてある。差出人の名前は、ケニアにして学校の名を高めたのか、といった言葉で埋め尽くされている。「この葉書を目にするたびに、何くそ負けるか」という気になります。箱根駅伝まであと2カ月。来年の正月もまた、山梨旋風が吹き荒れそうな気配だ。